

## TOKYO X-Association が総会、新会長に石井高洋氏を選任



TOKYO X-Association (植村光一郎会長) は10日、東京・新宿区の京王プラザホテルで平成30年度総会を開催。提出全議案が承認された。任期満了に伴う役員改選では発足以来会長を務めてきた植村会長が退任。石井高洋氏(㈱エムアイフーズスタイル・三越伊勢丹グループ)を新会長に選任した。



TOKYO X-Association では今年度から、東京オリピック・パラリンピックまで2年に迫ったことから実質的な販売活動にシフトし、認定店での販売活動を強化する。総会後の消費者交流会などの協会としての活動を控え、認定店主体の独自のBtoCに軸足を置く体制を構築。認定店への販促活動と情報発信の充実を図るため、店舗への具体的な補助を行う。また、これまで第5肋骨と第6肋骨の間を切開し、そのロース芯で肉質判定を行ってきたが、日本食肉格付協会のPMS基準の判定基準が第4肋骨と第5肋骨の切開部での判定基準になるのに合わせ、6月1日から判定箇所変更を実施する。

冒頭のあいさつで植村会長(右写真)は「前期のTOKYO Xの出荷頭数は9623頭だったが、今期は1万頭を超えるように生産体制、販売体制を強化していきたい。最近はいんば운드需要が非常に高まっているが、そういったことも踏まえ、TOKYO Xも生産工程の優位性などをより一層アピールしていく」とした。来賓からは東京都議会議員の清水孝治氏、東京都産業労働局農林水産部長の上林山隆氏、日本養豚協会常務理事の小磯孝氏がそれぞれあいさつした。さらに石井新会長(左写真)は「初めてTOKYO Xを三越恵比寿店で販売したのが約20年前であり、2頭分の限定販売だったが1日で完売したことを覚えている。2年後の東京オリピック・パラリンピックに向け、TOKYO Xがさらに話題になることは間違いない年となる。植村会長がこれまで築き上げた信頼を維持しながら、さらなるTOKYO Xのブランド力強化を「目ざす」と意気込みを語った。

その後は「東京発のおいしい豚肉 畜産物の販売戦略とブランディング TOKYO X-Association 編」(北野書店)の出版を記念して植村前会長、石井新会長、廣田美子氏(くらし探検くらぶ代表)、本間朋子氏(レットイットビー代表取締役)によるTOKYO X-Associationの18年を振り返る記念対談が行われた。新役員体制は次のとおり。

会長 石井高洋(エムアイフーズスタイル)▽副会長 伊藤晴規(ミートコンパニオン)▽理事 足立勝(西友)▽小林和人(大多摩ハム小林商会)▽中村敏章(人形町今半)▽石田政士(京王プラザホテル八王子事業部)▽幹事・書記長 小石伸市(ミートコンパニオン)